

新しい発展をめざして



(題字は稲川先生)
第22号
昭和60年3月31日発行
三 翠 化 学 会
津 市 上 浜 町 1515
三 重 大 学 農 学 部 内
農 芸 化 学 科
振 替 名 古 屋 9-59345
電 話 津 (0592) 32-1211
印 刷 (株) 有 限 公 司
名 古 屋 (052) 332-086

昭和六十年三翠化学会総会 五月二十六日、四日市で開催

昭和六十年三翠化学会総会は、五月二十六日(日)、四日市にて開催致しますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいませ。当日は、十一時から十二時までは懇親会、十二時から二時までは懇親会を行います。
なお、会場は近鉄四日市駅前交通至便の所です。また、今年度クラス会等も予定しているクラスにおかれましては、是非計画を総会の前後に合わせさせていただきます。総会にご出席下さいませ。



クラス会礼讃

大1 青木みか

大学一周年は昨年十一月十日、名古屋の一隅でクラス会を催した。私共のクラス二十八名は福田幹事(現井村屋製菓常務)の世話で隔年に会を開いているが、当日の出席者は十三名であった。毎回、出席率は五十パーセント内外であるが、近辺の者が多いため顔ぶれもほぼ固定している。

全国の友よ集まれ!!

ことしは初参加者大歓迎

暖かな春になりました。ことしもまた三翠化学会の総会が迫って参りました。昨年は名古屋市内において東海支部と合同して、五月二十六日に初

私達のクラスは駿馬のような秀才も富豪家もないようなが、ただ個性のままに悠々と真実一路に生きている。秋灯下に集う白髪や顔に刻まれた三十年来の皺は「Lebensgeschichte」の証を語っている。
ある人は「過去を語り、思い出を懐かしむことは人生の快事ではあっても前向きなものではない」と。そこには進歩も向上もない。しかし私は政治的・経済的な利害関係もなく、集団につきものの上下関係もなく、ただ虚心の懐、齒に衣をさせぬ旧友たちとの集いにひかれる。そしてこのように愉快な仲間と同じ世代に生き、同じ学窓に学んだことに感謝したくなるのである。青木記

めて四日市市で開催することになりました。三重県の北勢地域や東海支部の方々の出席の便を考えたので、どうか昨年にも増してより多くの御出席をお待ちしています。
とくに今年には、三翠化学会設立二十周年に当たり、えと(干支)で言えばひとまわりしたところ、ここで心機一転して、新しい発展をめざして、第二ラ

醸酵学研究室OB会 のお知らせ

日時 昭和60年5月26日
三翠化学会終了後
場所 四日市市内(未定)
会費 約1,000円(喫茶代)
申し込み 三翠化学会
の出席通知に追加記入してください。
世話人
桃井(大1) 岡田(大3)
刀根(大5) 長谷川(大8) 今西(大12)

情報化社会の到来

大1 林 伸 樹
(現職：情報処理振興事業協会役員)

義されるが、工業社会の特徴が「大量生産、大量消費」であったのに対し、情報化社会のそれは「軽薄短小、多様化」だといえる。経済的拡大よりも附加值が重視され、高度科学技術が成長の基盤となるため、知識社会、科学社会とも呼ばれる。情報化社会はまさに「ハイテク社会」なのである。

宇宙、電子工学、生命科学、新材料、エネルギー等の分野で猛スピードで進む先端科学技術は、人類社会に産業革命以上の変革をもたらさうといわれている。ハイテク株オンパレードの観がある。かつて、神武景気、岩戸景気が終った昭和三〇年代後半から日本でも「ポスト・インダストリアル・ソサエティ」(脱工業社会)の議論が盛んになったが、その後四〇年代の高々度成長期、五〇年代の調整期を経て、今われわれはその新しい社会に足を踏み入れようとしている。人々はそれを「情報化社会」と呼ぶ。情報化社会は「情報が物やエネルギーやサービス以上に有力な資源となり、情報を中心として社会、経済が運営される社会」等と定義されている。

F A や O A (工場や事務所の作業のオートメ化)の普及によって人間は、溶接等の悪環境作業、精密加工等のしんどい作業、帳票整理や図面作成等の手間を削減する作業から解放される。原子炉内の保守点検、深海開発、災害救助等の「極限作業」もやがてはロボットが代わってくれる。主人は自宅のワークステーション(コンピュータの端末)で在宅勤務、奥さんはキッチンでホームショッピング、子供は塾に行く代りに勉強部屋で C A I

総説

昨年度は「ニューメディア元年」と呼ばれたが、今年には「ハイクブ元年」と呼ぶべきか。昨年は放送衛星の打ち上げ、東京三鷹地区での I N S (高度情報通信システム)の実験開始、キャブテンの商用化等が次々とマスコミや経済界に話題を提供したが、今年は科学万博が話題の中心になるだろう。株式市場では、既に一昨年からエレクトロニクス株が猛烈に買い上げられ、昨年後半からはファイブセラムックス等の新素材、がん新薬等のバイオ・テクノロジーに関連する株が手当たり次第に買

われて、ハイテク株オンパレードの観がある。かつて、神武景気、岩戸景気が終った昭和三〇年代後半から日本でも「ポスト・インダストリアル・ソサエティ」(脱工業社会)の議論が盛んになったが、その後四〇年代の高々度成長期、五〇年代の調整期を経て、今われわれはその新しい社会に足を踏み入れようとしている。人々はそれを「情報化社会」と呼ぶ。情報化社会は「情報が物やエネルギーやサービス以上に有力な資源となり、情報を中心として社会、経済が運営される社会」等と定義されている。

しかし問題は、こうした技術進歩が、他面で深刻な影を落とし始めたことである。昨年度の国内郵便発着数は一六〇億通、その八割が D M (ダイレクトメール)だといわれるが、われわれが日常何気なく受け取る D M も出す側は何十万何百万と蓄積した個人情報ファイルを使っている。個人の経歴、家族構成から収入、信用度、趣味、その他に及ぶ情報が、ありとあらゆる手段を使って本人の知らない間に進められ、プログラムマーケットで売買されている。その市場規模は数年後には一兆円になるともいわれる。コンピュータとデータベースの問題である。また、先般の東京世田谷谷の通信回線火災では、八九、〇〇〇の一般加入電話と三、〇〇〇の専用線、特定回線が不通になり大騒ぎされたが、通産省の資料では、大規模コンピュータシステムのダウンの平均回数は四六〇時間余(五七年実績)となっている。その多さに驚かされる。銀行のオンラインシステムを悪用した金銭横領等のコンピュータ犯罪も増加傾向にあり、本年度警察白書の冒頭に取上げられているが、外国では、暴力団が電話回線を使って警察の暴力団関係ファイルを変更した例もあって、アメリカではコンピュータで「ミニシア」のいたずらでミサイル防空システムが誤作動させられ、いかと深刻に心配されている。

る。コンピュータ・セキュリティの問題である。流通革命の切り札とされる P O S (販売時点管理システム)も、最近では発注ロットの細分化等による下請メーカーやトラック運送業者へのしわ寄せ等が問題視され始めた。労働の面でも、F A , O A の普及が雇用にも与える影響(大手電機企業「三社の女子従業員は過去一〇年余で半減」各種職場でのテクノストレス、ソフトウェア技術者の三才停年説)にみられる様な労働環境への影響等が深刻化してきている。しかもこれらは、先端科学技術が投げかける問題のほんの一端を述べたにすぎない。光が影を伴うごとく、過去にも技術進歩は常に様々な問題をひき起こしてきた。今強調すべきは、技術進歩の余りの速さが、それらの問題を深刻化していることである。

自動車は、発明以来これまでの発達過程で、交通規制、運転免許等の制度が徐々に整備され、安全装置の義務づけや公害規制もきびしくなっている。しかし、「もし過去二〇年間に自動車性能とコストがマイクログレードアップされたら、ローレルの値は二ドール七十七セントになり、ガソリンのガソリンで三〇〇万マイル走り、クインエリザベス号を航海させるに十分なパワーを持つだろう」という程急速な先端科学技術の進歩には、人々も社会体制もついて行かなくなっている。人類はその安全利用と核兵器不使用のためにあらゆる政治的・社会的エネルギーを結集してきたが、今後は、先端科学技術全般について同様の努力が求められる。「生長の限界」の提言等から知られる国際的未來研究団体ローマクラブも今年「先端技術が社会に与える影響」を主テーマにしている。その活動結果に注目したい。

日曹商事株式会社

大15 長島貞武

日本ソーダ工業の先駆者中野友礼により設立された日本曹達(株)を親会社として昭和十三年に販売部門として設立されたのが、当社の沿革です。当時は親会社の製造する電解製品である苛性ソーダ、液体塩素、塩素系誘導品(四塩化炭素、晒粉、BHC等)が販売の主力であったものが、現在は業容の拡大と共に、日本曹達(株)以外の製品の販売ウエイトが大きくなり、今では30%弱が親会社、20%が関連会社製品、残り50%は日曹以外の製品となっており、日曹以外の製品の内容としては、化学薬品全般、樹脂及び成形機械、非鉄金属、殺菌剤及び防疫薬剤、建材及びウレタン製品、FRPタンク設計製造、リレースイッチ等の電機部品、貿易業

務等がありますが、化学薬品のうちでは、苛性ソーダ、無機有機薬品はもろろんの事、その他医薬品、農業関係の中間体、最近の感熱方式によるFAX用感熱染料、半導体の次第製法となるであろうMoVED(アメリカペン)ロケケミカル社と提携用の有機金属等の販売も手がけております。事業所としては東京本社を中心に、大阪、名古屋の各支店、札幌、仙台、高岡、広島、福岡、熊本の営業所となっております。

さて当社と三重大とのかわりあいは、岩本喜一先生と専務で引退された中村氏が東大時代の同窓という事で、当時岩本先生の生化学専攻の大学五回生加藤見氏が入社第一号となりました。現在は親会社の日曹に籍



を置かれ、東京本社資材部長の要職につかれ、大きな目をギョロギョロさせながら、日夜奮闘されております。その後加藤氏の御健闘が大いに評価されたか、第二号入社として九回生の平田忠史氏が、現在は名古屋支店長として活躍されとおります。少々オツムの方は後退気味ですが、名古屋地主の特長を生かし、小さな体で精神的かつ営業の大ベテランよろしく御活躍中です。その後、十五回生の筆者となるわけで、平田先輩が三重大にスカウトに連れられ赤木先生もサジを投げておられた当社勤務で現代流三種競技(?)を駆使しながら、努力致しております。伝統がその後引き継がれ、今度は筆者が大学に向き、滝先生の御助力によりまして二十一年生の宮崎正君、又高崎君の紹介により、同期の大槻幹雄君を獲得し、高崎君は名古屋支店、大槻君は大阪支店、入社後10年を経過し、いよいよ脂が乗り切つて、中核社員として活躍中です。以上五名が三重大出身者となりますが、二十年余り思つておりましたが、さて、商社という業種も化学的知識を充分生かして各種業務の接点を担うわけで、技術的深まりはないものの幅広い知識が備わり、非常に多分野への活動となります。メーカーの限られた商品の販売とは異なり、あらゆる商品が販売商品の対象となるわけで、充分技術を生かせる道はあると思われまふ。そんな目で商社という業種を見ていただけの一法かと思ひます。現在十五回生長島記

職場紹介

山崎製パン株式会社

大20 斉藤 誠

まず皆様は、山崎製パンの歴史と現状を簡単に御紹介いたします。

当社は昭和二十三年に現飯島社主が、千葉市川市でパンの委託加工(小麦粉を持参した方がその前身であり、食料難に喘ぐ当時の人々の絶大な支持を得

ました。その時以来、良品廉価、顧客第一を社是に、パンのみならず和洋菓子にも進出し、現在に至つております。当時は、日本の食生活の洋風化が進行した時期にも当り、いち早く導入したパン・菓子の大量生産システムにより、安価で美味しい製品の供給が実現しました。

現在は主に、パン・和洋菓子

の製造販売及び各種食品の販売をその業としており、特にパンにつきましては、全国シェア約25%と業界一を誇つております。また、これらの製品は北は仙台から南は熊本まで全国20工場毎日製造され、五万二千軒の小売店に届けています。

食品業界は御存知の通り、消費者ニーズの多様化、嗜好の変化と言ふ大きい波に洗われております。当社もそれに対応すべく、従来のホールセール(卸売)を主体とした生産販売活動以外に、ベークオフ(店内焼成)の分野にも進出を始めました。その第一歩として、製パンの冷凍技術

で有名な、フランスのグラン・ムーラン・ド・パリ社と業務提携し、高地備立地出店店舗と併せて、ヴィ・ド・フランスを首都圏を中心に展開しています。また、高級洋菓子専門店のチェン展開も昨年より開始しました。海外活動については、ベークオフの店舗を香港、タイ等で展開しています。

また、末端小売店の流通革命は量販店の出現により加速度的に進行し、構造が変化しました。現在はコンビニエンスストア(CVS)の進出がめざましく、当社も独自のCVSチェーン展開として、サンエブリ、

今私は...

大28 栗田 修

「今、私は」という題の原稿を書くにあたり、この三翠化学会紙の一面をかりて先ず一言。私、二十八期卒業生栗田は、三重大卒業の名に恥じないよ、正々堂々と働いていることをここに誓ひます。

浪の末、不二製油(株)の基礎技術研究所の蛋白質グループで、日夜新製品の開発に取り組んでおります。研究テーマは、現在、世間で、食糧危機への油糧種子の期待と騒がれている中の「大豆蛋白質の組織化」で、往復四時間の通勤時間にもひるむことな

り、多忙な毎日を送っています。企業に就職し、まだ二年しか経たない私ですが、常々心に思つておられることは、企業と大学は違ふと思つて仕事をしています。良い仕事ができないということ、確かに、企業は利潤追求の為に研究でスピードを要求されます。それに対し、大学は十分時間をかけて科学の真理の追求を行います。しかし、どんな取り組み方にも、目先の利益や名声の算盤をはじいていては、良い研究にしろ良い仕事にしろできません。そして、良い

仕事をするために、やはり大学での基礎知識は欠かせないということですね。人、各々、いづかはその道の専門家になるにせよ、最初から専門家にはなれません。仕事に慣れることによつて、専門家になっていくのかもしれないませんが、それでは本業の意味での専門家にはなれません。そうした意味で、大学で勉強に励まなかった私にとつては、今、専門家になれるかどうかの重要な時期にあると感じています。しかし、大学を卒業しても五年、三十歳の声も近く、正直なところ一方で焦りも感じています。

でも、私、二十八期卒業生栗田は、三重大の名に恥じないよ、毎夜々々晩酌に会社の愚痴をこぼし、いやいや、訂正して再度申し上げます。私、栗田は正々堂々己が道を悔いることなく邁進することをここに誓ひます。 — 以上 —

毅然とした態度で...

大32 小宮 源之

私が税関に就職してから一年がたとうとしています。今、監視部に配属されており、大学時代白衣を着ていた代りに官服を着用し、毎日港の監視取締に励んでおります。

税関に就職すれば最初必ず監視部に配属されるということ、初めは慣れない仕事にたいへん戸惑いました。税関に就職して大変だったことは、税関外

の人は新入職員に対しても一人前の税関職員として接してくることで、結局自分では処理できず、先輩に頼ることもしばしばでした。

またまた話は変わりますが、税関には監視の他にいろいろな職場があり(例えば、通関部門、

検査部門、分析部門等)、いろいろな専門官が勤務しております。それだけ魅力のある職場だと思ひます。

私も今後のような部門へ配属されるか楽しみです。また、分析部門で白衣を着る機会もあるかもしれないが、どのような部門へ配属されてもガンバルつもりです。

乱筆、乱文及び全体的に文章が暗い雰囲気になってしまったことを深くおわびします。



ようやく落着いて...

大32 井戸田 万里

あれは、夏の初めの頃でした。本採用になった頃のことだと思ひますが、何だか落ちつきません。ようやく落着いて、少くも、わかつてきて、少し精神の余裕が出てきたのでしようか、地に足のついていないような心許無さを感じたのです。

そこで、その時思ひました。今までは、六・三・三で十二年から、三ヶ月の試用期間が終了し、本採用になった頃のことだと思ひますが、何だか落ちつきません。ようやく落着いて、少くも、わかつてきて、少し精神の余裕が出てきたのでしようか、地に足のついていないような心許無さを感じたのです。

そこで、その時思ひました。今までは、六・三・三で十二年から、三ヶ月の試用期間が終了し、本採用になった頃のことだと思ひますが、何だか落ちつきません。ようやく落着いて、少くも、わかつてきて、少し精神の余裕が出てきたのでしようか、地に足のついていないような心許無さを感じたのです。

生 一年 人 社会

る時期が過ぎて、少くも、わかつてきて、少し精神の余裕が出てきたのでしようか、地に足のついていないような心許無さを感じたのです。

毎日、とにかく暮らしていくことはできますが、長期・中期・短期の目標をつくり、区切りを自分なりにつけておかないと、方向を見失つてしまいかねない、不安なんでしょうか。けど、ちょっと矛盾してしまっています。実際はまだ、その日その日を暮らして精いっぱい感

話が変わりますが、今仕事をしたい一番うれいのは、ミティンクに出て、わからない、わからないなりに、何か考えられるようになったこと。そして一番つらいのは、これは、四月からずっとですがお昼休み直後の睡気たたかうこと

最後に、原稿が、大変おそくなりまして、申しわけございませぬ。期限ギリギリというの、学生時代とちつともかわっていませんね。